• 新しい知事さんへ

―― 恥じ，そしてわらう ――

本郷　新

「札幌には美術館ありますか」という問いに出会う毎に，札幌生まれの私はいつも困ってしまう。

「まあ名ばかりの〝北海道立美術館〟というのはありますが，それは三岸さんという物故作家の作品陳列場みたいなもので，とても美術館などというものではありません。全く恥かしい次第ですよ。ごぞんじのように，外国では小さい街にも美術館があり，日本だって，札幌より小さい都市にたくさんありますよ。中には相当の規模のものが，県立とか市立とかいう形でどんどん出来てますがね。北海道はもう百年もたって今や田舎ではないとよくいわれますが，この美術館一つ建たない一事を知れば，すべてがおわかりでしょう。まだ，田舎都市なんですよ，僕は北海道生まれの美術家ですから，誰よりもこのことを恥かしく思い，また苦しく思うのですが，困ったことです。」私はつづける――。

札幌に美術館建立のための期成会が出来て，もう10年近くもなり，それには地元の御歴々が名を連ねて形だけ見ると立派ですが，ポーズばかりで実際の行動がともなわないもんだから，政治家にうまいことなめられているんです。今ある美術館だって，うまいことすりかえられて，政治家側はこれでひとまず道立美術館を作ってあげましたとでも思っているのでしょう。おかげで運動はストップし，そのうちに本格的な美術館を作りますよという政治家のから手形を信じてるんですから，話になりません。

大体歴代の知事で，本気になって美術とか音楽とか劇場とか，芸術文化の発展について構想をもった人はいないんです。つまり，田舎政治家ばかりで，〝開発〟という観念の中に，文化の問題が入っていないのです。たまたま〝文化問題〟について何かやろうとすると，北海道と縁もゆかりもない中央の名のある文士や画家などに，地元の文化的発言をときどきするような〝文化愛好人士〟を加えて，審議会とか委員会みたいなものを作ってみたりしているようですが，こっけい至極なおめでたいものなんです。ぼくの友人で，北海道に縁もゆかりもない画家が審議会の一員に名をつらねていますが，お役所というところは，まだそんな愚かなことをやって，ごまかしているんです。北海道にも立派な画家がたくさ

んいますし，また文学，演劇，音楽などについても見識のある人がたくさんいることを知ってますが，地元軽視，中央偏重の官僚気質には困りますね。つまり，文化問題の中味がわかっていないから，形ばかり考えているんですね。

何でも聞くところによると，北海道議会の文化関係の部門は〝林業〟とか林務とかの部と一しょになってるそうで，文教林務とかいうのだそうです。ずい分人を食った話ですね。美術館の館長の地位なんかも係長か課長クラスのあつかい方だそうだし，予算も，年間の買上げ費用が五百万にはるかに満たないそうです。それで何が出来ますか。非常識ですね。また，最近聞いた話ですが，道立美術館で買う作品は，生存している作家のはやめて，物故した作家のものに限るような滑稽な意見が出てるそうです。死んだら作品が高く評価され，生きてるうちは信用出来ないみたいな馬鹿なことが，まじめに話合われているそうです。パリでもニューヨークでも，30歳代，40歳代の現存作者の作品がどんどん美術館に収蔵されていますね。物故美術館では，本当の現代の美術館にはなりませんよ。どうも北海道というところは，芸術の問題についてわけのわからぬ官僚と，見識の片よった文化人？みたいな素人の意見とで，歯車がぎしぎしいいながら働いているようにみえますね。中央から大規模な演劇，音楽，美術展がきたくとも，満足にやれるところがないのですよ。

昨年あたり人口百万をこえたといって騒いでいますが，市民の内面の生活，即ち生活の中の文化性や芸術と精神といった問題について，真剣に考えている政治家がいないのです。米と魚と，道路，港湾と観光と何やかや，開発開発で騒いでいますが，その中に自主的に，根元的に北海道民の精神文化の生活について悩んでる政治家がいないんですね。

前の知事は，北海道の文化政策の貧困をみとめ，その無策を反省しているといってましたが，こんどの知事さんは，この反省のあとをついで何をやるのでしょうか。反省の時期はもうとうに過ぎているのです。具体的に一つ一つやってもらいたいし，まず何よりも，新しいビジョンというものを聞かせてほしいものです。